

平成29年度 第 8 回教育委員会定例会

議決事項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
<p>議案第19号 平成29年度社会教育功労者の決定について</p>	<p>垂水市社会教育関係表彰規程に基づき、平成29年度社会教育功労者を決定するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>承 認</p>
<p>議案第 20 号 垂水市教育支援委員会答申について</p>	<p>垂水市教育支援委員会の答申を受けて、児童生徒の望ましい措置を決定しようとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>承 認</p>

平成29年度 第 8 回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出席者	
<p>平成29年11月10日（金）</p> <p>午後1時58分</p> <p>↓</p> <p>午後3時47分</p> <p>第2研修室</p>	<p>教育長 坂元 裕人</p> <p>教育委員 野村 繼治</p> <p>教育委員 田原 正人</p> <p>教育委員 中谷 いつみ</p> <p>教育委員 葛迫 幸平</p>	<p>教育総務課長 池松 烈</p> <p>学校教育課長 下江 嘉誉</p> <p>社会教育課長 野嶋 正人</p>

# 会 議 要 旨

## 1 開 会

定刻、定足数に達しており、平成29年度第8回教育委員会定例会を開会した。  
議案第19号から20号の2件は非公開で審議する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

## 2 平成29年度第7回定例会会議録の承認

承認

## 3 議 事

議案第19号 平成29年度社会教育功労者の決定について  
議案第20号 垂水市教育支援委員会答申について

## 4 その他

なし

## 5 委員並びに教育長及び課長報告

## 6 閉 会

議事内容等

3 議 事	議案第 19 号
	平成 29 年度社会教育功労者の決定について (非公開)
	議案第 20 号 垂水市教育支援委員会答申について (非公開)
4 その他	なし
5 委員並び に教育長及 び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告
教育長	教育委員並びに教育長及び各課長報告に入る。
野村委員	<p>1. 「第41回垂水市民文化祭について」</p> <p>11月5日市民文化祭に出席した。午前中は舞台発表を鑑賞した。開会式前のオープニングは圧巻であった。ベンチャーズ再来という感じで、学生時代の活力が甦ってきたような感動を覚えた。「シリウス」の皆さんに感謝する。</p> <p>会場は最初観客が少ないのでちょっと驚いたが、発表が始まると次第に増えてきた。プログラムが進むに従って、各団体多くの方々の日々研鑽の大きなエネルギーを感じた。</p> <p>午後は展示部門を観た。各コーナー多くの方々の作品が展示されていた。まず、インパクトを受けたのは、富士山のデザイン的な絵だった。わあ一大画面でスケールのある、そして洒落た絵だなあと感じて近づいたら、葛迫先生の作品だった。一際存在感はさすがであると思った。これからも多忙の中だが、会場の中心になるようなテーマ作品を、オブジェをアイデアしていただけたらと思う。</p> <p>そして、新しいジャンルと言うか、もう一つ会場に新しい風を吹き込んでいたのは、拓本とさつま狂句だった。今までにない展示で、それぞれ瀬角龍平氏と保久上光昭氏の出品であった。二人とも知り合いということで、念入りに鑑賞させていただいた。</p> <p>市内各学校の作品展示もよく工夫されていたのではと思う。各学校各学年ごとに区分された掲示で、大変見やすく印象的だった。会場の係の方が一昔前の頃は、学校関係の展示はあふれるくらいの作品があったが、最近は少なくなって寂しくなったともらされたのが印象的だった。</p> <p>最後に、久しぶりに池坊阿世知先生のお点前をいただいた。あのような本格的なお茶席で飲むお茶はまた格別なものであった。先生は厳格な方で近寄り難いところもあるが、お花やお茶の道で若い後進の方々を懸命に育</p>

	<p>てていらっしやる姿に、ありがたいことだと感謝する次第であった。</p> <p>先生が御指導されているお点前の場面は、古き良き時代の、「良きとは、芸の道を徹底して厳しく指導するという意味」であるが、その精神をしつかり貫いていらっしやるという凜とした空気があった。もろもろ大変充実した時間であった。</p> <p>1. 「平成29年度肝属地区教育振興大会について」</p> <p>11月4日肝属地区教育振興大会に出席した。田代中や錦江中の合唱にとともさわやかな素直さを感じた。錦江町の指導主事の発表も故郷を好きになり、誇りに思える子供達を育成するような多くの体験を交えた心の教育がこれまでもこれからも一貫して行われていくと感じた。</p> <p>岡本安代さんの元気いっぱい、はちきれんばかりのパワフルな講演には、圧倒された。アナウンサーだけに、自分の心を奮い立たせる言葉をたくさん知っているし、その言葉の魔力を子どもや家族だけでなく、自分自身に投げかけながら頑張っているのだというところがすごい人だと思った。とにかく元気をもらえるいい話であった。</p> <p>2. 「文部科学省のいじめ調査について」</p> <p>10月27日の南日本新聞に文部科学省のいじめ調査が掲載され、32万件のいじめが報告された。特に小学校で1.5倍（43.8%）増の約98,000件、鹿児島県では5,900件（26件減）という結果だった。件数が多いということは、それだけ教師が把握しているということだと思ふ。</p> <p>その中で、福岡と名古屋で起こっていた、教師による子どもへのいじめ（指導悪）は、指導の範疇としては、行き過ぎがあるように思う。女性副担任のネチネチとしつこく叱責する。しかも、人前でとは、多感な中学生の心を傷つけたのではないか。本人は自殺に追い込まれた。</p> <p>新聞は、指導悪（指導死）と報じていた。教師も自分の指導が本当に本人の心に届いているか、愛情ある指導となっているのか反省して見る必要がある。死に迫いやる指導などあってはならないし、教頭や校長の職員への指導は、どうだったか反省すべきである。</p>
<p>田原委員</p> <p>中谷委員</p>	<p>10月13日 中央中研究公開、17日 水之上小研究公開、25日 陸上記録会、26日 民生委員大会、11月2日 地域が育む「かごしまの教育」県民週間、柘原小訪問、5日 垂水市民文化祭、6日、柘原公民館の文化祭についての会</p> <p>1. 「地域が育む「かごしまの教育」県民週間、柘原小訪問について」</p> <p>たくさんの研修会に参加させていただいた。なかでも11月2日県民週間、柘原小学校訪問は、保護者の代表、民生委員、公民館長、主事、老人クラブの10名程と一緒に授業参観、給食までいただいた。普段からの地域の応援でほとんど顔なじみで、子供達は給食の世話をたくさんしてくれた。</p> <p>授業は、全学年一斉に小中合同音楽会に向けての合唱、器楽の練習だった。本番の音楽会も感動するが、一つのを皆で力を出し合って完成させていく過程をみることで、音の中で、良い時間をいただいた。</p> <p>ただ、給食の食前、食後の挨拶が「いただきます。」と「これで給食を終</p>

わりましょう。」だった。私達は、たくさんの命をいただいて生きている、その命に感謝して、「ごちそうさまでした。」が良いのではないかと思った。

## 2. 「新城小の社会科見学について」

11月7日にあるスーパーに買物に行った。駐車場には、小学生の児童達の姿があった。店に入ると、新城小の教頭先生がカートを押して野菜をまじまじと見ておられる。会わないようにと違うコーナーに行ったら、そこにはもう教頭先生が。

「こんにちは。今日は、何でしょうか。」とお尋ねすると、

「社会科見学で、広告を見ながら買物です。」と。カートにはいっぱい野菜が。手には、拡大した広告のコピーが。

結局、楽しそうに買物をされる教頭先生の姿しか見られなかったが、随分前に、ある保護者から、

「うちは子供をスーパーには連れていきません。走り回ったり、うるさかったり、余計な物を買ってしまうからです。」と聞いたことがある。

「違うでしょう。スーパーは、季節を感じ、おいしい物が目の前にあって楽しいところでしょう。我が子を手連れていきましょう。」と話したことを思い出した。生活の中の体験が子供の力になる。新城小の子供達はきっと楽しい一日だったことだろう。

葛迫委員

## 1. 「富士山の絵について」

富士山の絵について野村先生からお話があったありがたいと思う。あの富士山の絵は、詩吟の錦城会というのがあり、錦城会が全国大会を鹿児島で開催するとき、詩吟と空手であったり、詩吟と書道であったり、居合ひであったり、いろんな人達とコラボというか催しというかすることがある。トップの人を知っており、「絵を描いてくれないか。」と打診があって、前一回やったことはあったが、詩吟の詠う時間が2分から3分で、2～3分の間に、長さが3mくらい高さが1.5mくらいの画面の中で絵を描いていくが、僕は富士山の絵を描いてくれと、詩吟の題が「富士山」だった。富士山と言われても、どういう風に描いたらいいか分からなくて、「内容とその詠っているテープを送ってくれという。」ことで送ってもらった。紙を大体10m買って置いて、一応、本番とリハーサルと自分の家で1枚描いておこうということで、今回出品したのは、自分の家で描いた分だった。1枚描いてもなかなかタイミングが取れないで、テープを聴いても。どうしようかとそれで小さいのを何枚も描いていたのだが、それで本番というカリハーサルに臨んだが、なかなかうまくいかなくて、どうしようかなど。よく考えてみたら、詠っているその文字をここに書いて置いて、言葉が来たときはここを描こうと、そうしていたら、結構うまくいったので、先生が言うように、素晴らしいものではないが、そういう裏があるから、一発で仙人が描くようであれば褒められてもいいのだが、ただ、遠くから見ると隠れた文字が見えないものだから、あれでよかったのかなど。リハーサルはテープで聴くのと違って短かった。ナレーションをする人が、よくテレビに出ている人で、一龍斎貞水の弟子で、ちょっとゆっくりしていただけないかとお願いして、なんとか本番はうまくいった感じだった。いろいろといい勉強をさせてもらった。ビデオを知り合いに撮ってもらって、

たまたま教育長にちょっとした間見てもらった。ビデオも折角だったら大きなもので撮っておけば、みんなに見てもらえてよかったが、ラインのものは何日かしたら消えてしまった。残念だった。

## 2. 「南日本美術展について」

例年、垂水で開催される和田英作・和田香苗記念絵画コンクール（ワダコン）がある。この絵画展ワダコンで第2回和田賞を受賞した濱田悠介氏（鹿児島市）が、今年の南日本美術展において昨日（11月9日付新聞掲載）海老原賞（パリ賞）を受賞された。垂水市開催のワダコンが若い芸術家の底上げに貢献していること、若い作家を育てていることが証明された。これからのワダコンの知名度貢献に一役買ってくれたと思った。本年度のワダコン展示に是非、第2回ワダコンで和田賞に輝いた受賞作品《秋想》を展示するようお願いすることだった。

教育長

南日本美術展でパリ賞を受賞されたのが、ワダコンで第2回展和田賞を受賞された方だということで、ワダコンもさらに大きな役割を担っていくことになるのだと思う。

中谷委員がおっしゃった確かに「ごちそうさま。」ですね。生活体験の話もされたが、子供達に豊かな生活体験をさせていきたい。

田原委員がおっしゃったのは「指導死」というものみたいです。新聞に掲載されていた。ただ、子供を叱るときには、十分な配慮のもと、逃げ道を作ってあげるとか、よく本人を納得させてあげるとか、そういう配慮が大事だと思う。そこを管理職が配慮してあげられなかったことが残念だ。

教育長

## 1. 「地域が育む「かごしまの教育」県民週間について」

11月1日、2日、地域が育む「かごしまの教育」県民週間ということで2日間ですべての学校を廻ってきた。ずっと廻ってきたが、行ってよかったと思った。子供の素敵な笑顔、真剣に取り組む姿、そういうものをいっぱい見ることができた。少し具体的に報告する。

新城小学校ではおもしろい取組をしており、3、4年生以上の児童と親子で朝御飯作りということをやっており、その後試食会。非常に親子のふれあい、会話が弾んでいた。あそこでいただいた味噌汁は非常に上品な味だった。コツを聞いてみると、出汁だそう。「出汁なんですよ。」とお母さんがおっしゃっていた。早寝早起き朝御飯と言うが、朝食の大切さを子供達も感じてくれたらう。

柘原小学校では、そのちょうど夜中に地震があった。私は爆睡してて、気がつかなかった。ちょうどその日、1日だったが、地震、津波を想定した避難訓練をやっていた。子供達はやっぱり真剣だ。基本であるところの高いところへ、高いところへという訓練をやっている、報道機関も3社くらい来ていた。あえて言えば、「津波てんでんこ」の話。あれは有名だ。釜石の奇跡は、その背景に津波てんでんこの教えがあったんだと。あそこは地震が多いところで、地震が来たら必ず津波が来る。津波が来るという想定で、高いところへ、高いところへと、まずは、自分が助かる。でないと、助ける人になれないんだという教えが徹底している。そういうことで、釜石の奇跡、99.8%という生存率。そういうこともまた教えてくださいねと

お願いをすることだった。

垂水小学校では、メインは外壁改修工事がらみの会議があったから、ちょっと外壁の状況を見てきた。かなり剥離が進んでいるなど、来年度予算でなんとか外壁工事の方をするための状況把握をしてきた。そこで、感じたことだが、かねてから言われてきているが、子供達の挨拶が他の学校から比べるともう少しという気がする。もう他の学校は、行けばとにかく挨拶をしてくれるが、垂水小学校はその点ではもう少しかなという感じがしたところだった。校長先生も教頭先生も非常に指導をされているんだけど、それがなかなか定着しない。それで、粘り強くということも大事なかなと思いつつ帰ることだった。

水之上小学校は、あえて、お昼の時間に行ってきた。13時くらいだったか、つまり、昼休みの子供達の姿を見たくて行った。ちょうど出くわしたのが保護者、あるいは、おじいちゃん、おばあちゃんがいっぱい帰られる姿。ちょうどその日に給食の試食会を開いたということで、いっぱい賑やかだった。一方、子供達とはというと、一輪車で遊んでいる子供達がいた。使ってくれているなど嬉しかった。それと、男の子達はサッカーをやっていた。あーやっぱり今時の子供達は野球ではなくてサッカーなんだと思いつつ帰ることだった。いずれにしても、外遊びを校長先生も奨励しているとのことで、外で汗をかいて、土にまみれて遊ぶ、そういう体験もしてほしいと思う事だった。

協和小学校は、水之上小の後で、昼休みの後半に行った。ここは、予告なしの北朝鮮のミサイルを想定した訓練を行っていた。そういうことを必要と感じてされているのだと思いつつ、いい訓練をされていると思った。よかったのは、子供達は真剣だ。想定外の中での訓練だったが、緊張感を持って真剣に取り組む姿は非常に印象的だった。それとその後の講話、校長先生の前、担当は宮下先生、中堅どころのよい教員だが、とてもいい話をしていた。いつ何時そういう事態に陥るかわからないと、地震も一緒、津波も一緒なんだと。その時に一番大事なのは、自分で自分の命を守ることを日頃からシミュレーションをしておくことだよと。例えば、自分のお家なら何処に逃げたら助かるのかと。常に考えておくことが大事だというような話をされていた。なるほどだなと思いつつ帰ることだった。

松ヶ崎小学校は、この日は校長先生が校外学習の引率ということで、教頭先生が補教に入っておられて、私が一番いいなと思いつつしたのは、落ち着いた雰囲気の中で、先生達も子供達に考えさせる発問、授業を展開させている。それには感心した。それと、説明文の用語集というのを黒板に貼ってある学年があった。こういうのがきちっと積み重なっていくと、きっと説明文の面白さというのに気がつくだろうし、読み方というのも同時に身につくだろうと思いつつながら、これは全市の学校にほしいなと思いつつ。説明文の用語集。とすると、文学の用語集というのものもある。だから、これはセットでほしいなと思いつつ。一応写真には納めた。そういうのが市全体の共有財産になればいいなと思いつつ帰ることだった。

牛根小学校は、ここも面白い取組を行っていた。下拂校長が例のごとく地域の方々を巻き込んで、お手玉とか紙鉄砲みたいな昔の遊びを人材活用をしながらやっておられた。この牛根小の子供達も明るくてはきはきして、子供らしい元気な子供達だ。また、職員も一体となって、いい学校



の教育を見ながら、境小学校に向かった。

境小学校に行ったときに、吉田教頭先生が授業をしていた。たまたま担任の先生が都合が悪くて、ちょっと遅れますと。初めて生き生きとした吉田教頭先生の表情、姿を見た。教頭職が辛いということではないが、本当に生き生きとしていた。また、字がうまい。境小の先生方はみんな字が綺麗。すごく板書が綺麗。その後、校長室で上園校長から生き生きとした学校経営の話をして1時間聞いた。そして、ちょうど検食の時間で、おいしい和食の給食をごちそうになった。

垂水中央中学校は、私は2日に行ったが、なんと2番目だった。1日が一人。2日で二人目。明石校長先生に聞くと、「中央中は大丈夫と安心感からでしょうか。」とおっしゃるので、「きっとそうですよ。見に行かなくても大丈夫。きっと信頼感があるからです。」と応えた。各学級を見て廻ったが本当に大丈夫だ。落ち着いた雰囲気の中で、先生方も一生懸命 ICT の機器等を使いながら子供達と向かい合い、子供達も一生懸命その授業に取り組む姿、本当に感動する。やっぱり、垂水中央中の素晴らしさは、静と動のけじめ、私共の頃も言われていたが、それがやっぱりしっかりできている。それと、挨拶が素晴らしい。今週、私は朝2回くらいたるスポまで行って、中央中を回って散歩しながら帰ってきたが、道々で会う生徒達が挨拶が素晴らしいこと。本当によく挨拶のできる気持ちのいい生徒達だ。

県民週間ということで全校を廻らせていただいたが、どの学校も先生方が頑張っている。そして、いい子が育っているということを実感して、嬉しくなって帰ってきた。これからは学校の応援団としてしっかりサポートをしてまいりたいと思う。

教育総務課長  
学校教育課長  
社会教育課長

10月11日から11月10日までの主な行事等について報告。  
併せて、12月11日までの予定についてお知らせした。

6 閉 会